

3回目ワクチン接種率の年齢階層別データについて

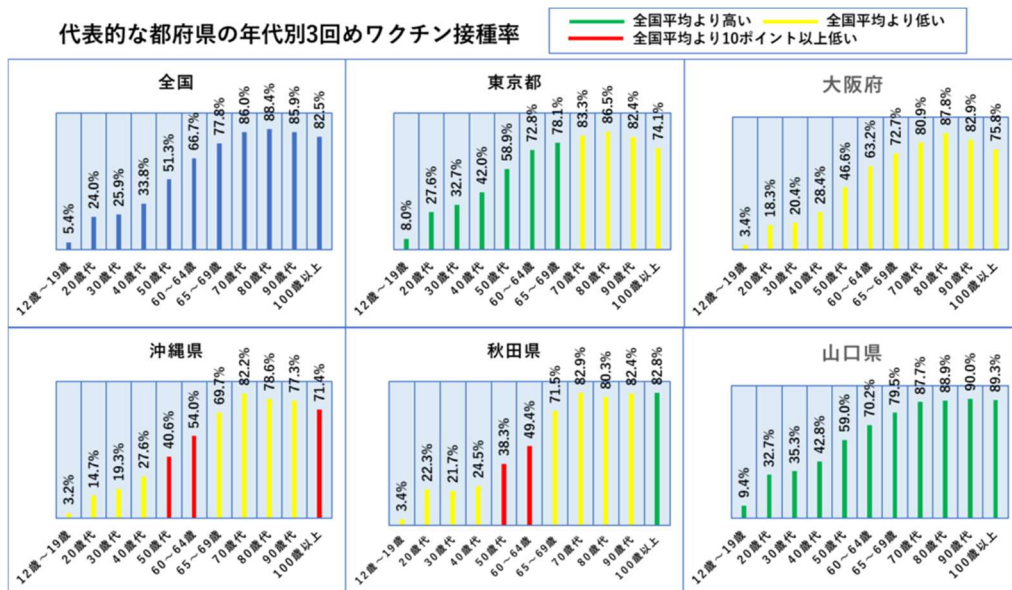
● 火曜日 - 12月4日 2022

昨日3回目ワクチンの年代別接種率が首相官邸ホームページに発表されました。報道では、年代別では20代、30代の接種率が低く、これが第6波において若年層の感染率が高い要因であるというような内容が伝えられていました。それはともかく、これが初めての年齢階層別の接種率データですので、何はともあれこのデータからご紹介します。少し細かい表で恐縮ですが、これが発表されたデータをもとに作成した各年齢階層別の上位10都道府県、下位10都道府県のデータです。

	12歳～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
全国	5.4%	24.0%	25.9%	33.8%	51.3%	72.3%	86.0%	88.4%	85.9%	82.5%
上位10都道府県	山口県 9.41%	群馬県 33.04%	山口県 35.33%	熊本県 43.83%	岐阜県 60.36%	岐阜県 79.28%	宮城県 91.21%	岐阜県 93.46%	岐阜県 91.51%	熊本県 93.06%
下位10都道府県	鹿児島県 4.02%	三重県 21.55%	三重県 22.46%	北海道 29.06%	大分県 44.70%	大分県 68.27%	青森県 85.12%	愛媛県 85.57%	神奈川県 83.78%	三重県 77.75%

この表中で水色文字は、東京と隣接する神奈川、千葉、埼玉の3県および大阪府と隣接する兵庫、京都の2府県、それに沖縄を示しています。一瞥してこうした感染者数が多い都府県は、上位には名前がなく下位に名前が多いのが気になりました。感染者の多いところほど先行して接種を進めるべきではないかと思えます。

次に代表的な都府県の各年齢階層別の接種率を全国平均と比較して示します。



左上が全国平均で、20 歳代が 24.0%、30 歳代が 25.9%と低く、年代が上がるにつれて接種率も上昇し、40 歳代で 33.8%、50 歳代で 51.3%、60 歳代前半で 66.7%、60 歳代後半で 77.8%、70 歳代で 86.0%、80 歳代で 88.4%、90 歳代で 85.9%、100 歳以上では 82.5%となっています。

これに対し感染者数の多い都道府県の代表として東京、大阪の年齢階層別接種率を示します。東京は若年層では全国平均を上回る接種率ですが、大阪はすべての年代で全国平均よりも低く背 3 回目接種が遅れています。

次に 3 回目接種が遅れている代表として沖縄と秋田を示します。この 2 県はほぼすべての年代で全国平均よりも接種率が低く特に 50 歳代と 60 歳代前半は全国平均よりも 10 ポイント以上低くなっています。

逆に接種が進んでいる代表として山口を示します。山口県ではすべての年代で全国平均を超えています。

データのご紹介はここまでですが、この結果をもって 3 回目ワクチンの接種率が低いことが第 6 波において若年層感染者が多かった原因であるとするには同意できません。すでに何回も本ブログで説明していますように、これまでのところ 3 回目ワクチンの接種率の上昇と感染者数は関係がないと思われるからです。

明日は、3 回目接種と感染阻止効果の関係について再度データをご紹介します。